

特別な支援を要する幼児への かかわり ver.2021

共通する対応
発達障害への対応



内容

1. 特別な支援を要する子ども
2. 全体への対応：共通する対応
3. 個別対応
 - － 知的障害。ADHD。ASD
4. 保護者との連携
 - － 連携。個別保育計画
5. 合理的配慮
6. 就学支援





1. 特別な支援を要する子ども

気になる子ども

発達障害特性・二次障害

特別な支援を必要とする多様な子どもたち(例)

[詳細はここ!](#)

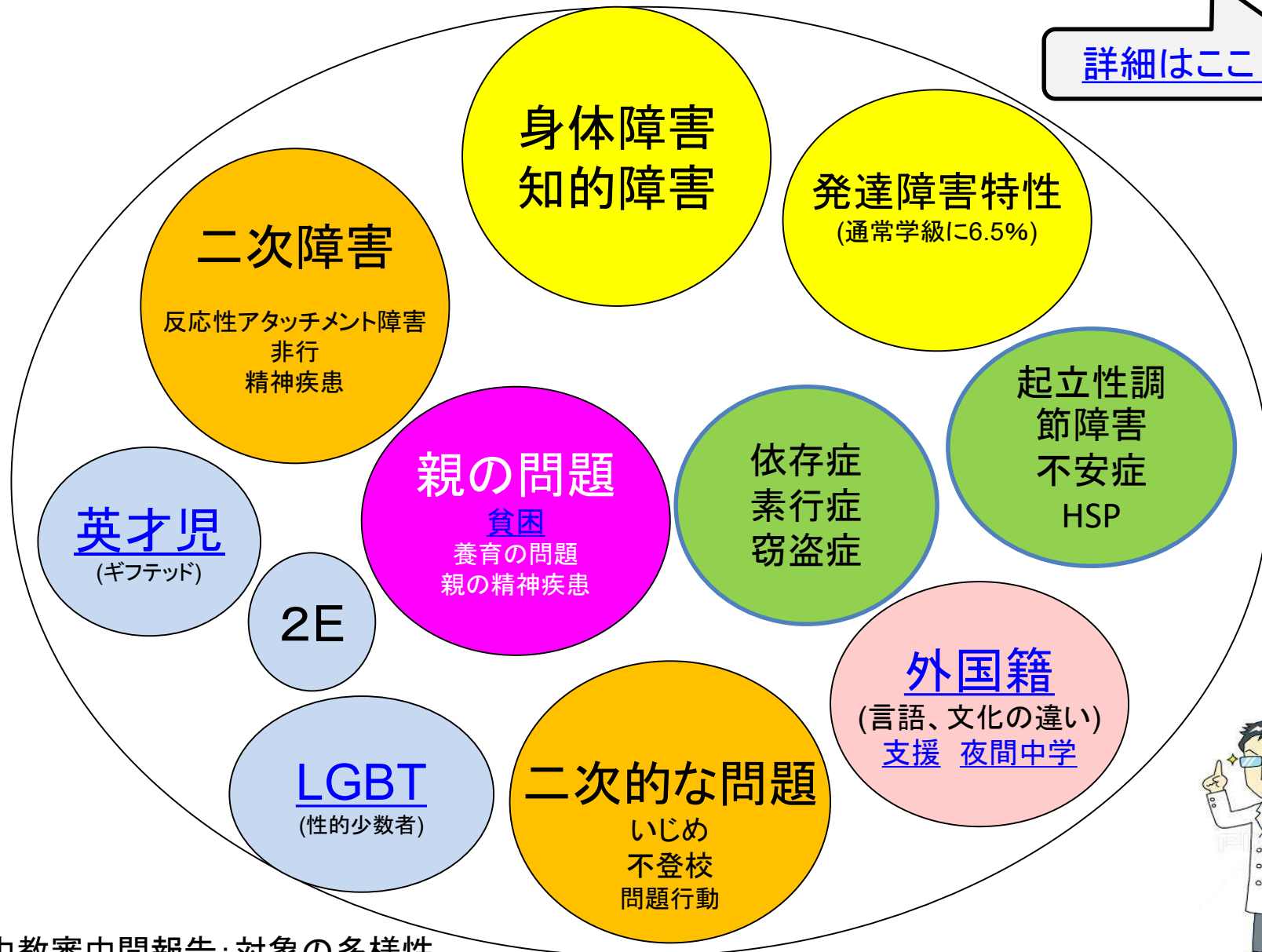


photo.jp - 10813164

(参考)中教審中間報告:対象の多様性

発達障害特性

学習の困難さ
対人関係の問題
行動上の問題

二次
障害

二次的
な問題

<主な発達障害>

LD:学習障害

ADHD:注意欠如多動障害

ASD:自閉スペクトラム障害

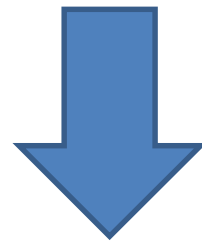
ID:知的(発達)障害

「発達障害」を見つけるより、特性のある子を特定し支援する

主な発達障害

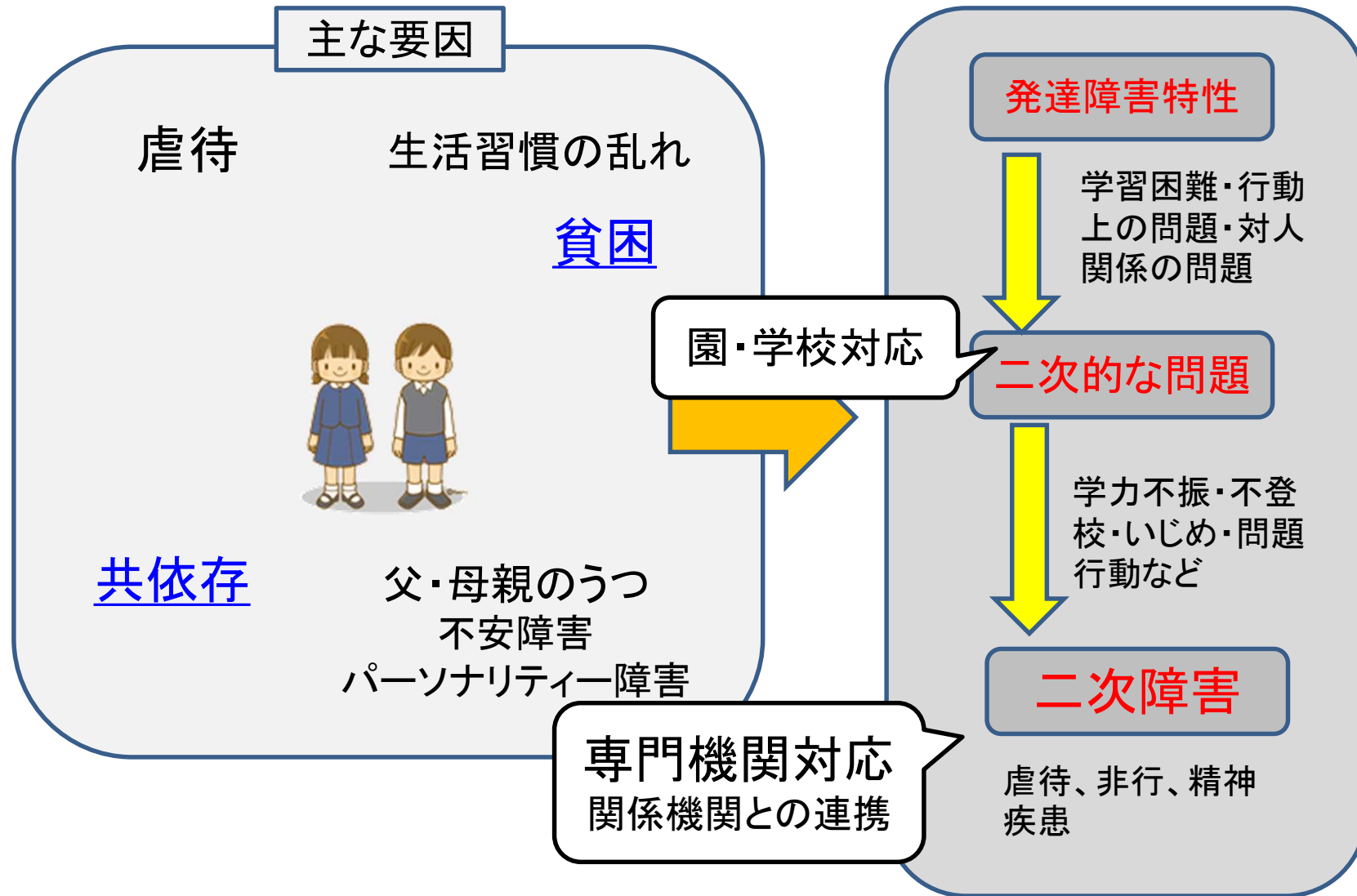
- 学習障害(LD)
 - 知的な遅れは見られないが、読み書き計算に困難さを示す
- 注意欠如多動障害(ADHD)
 - 不注意、多動、衝動性を示す、行動抑制の障害
- 自閉症スペクトラム(ASD)
 - 対人関係など社会性の困難さと、こだわりなどの同一性保持を示す
- 知的障害(ID)
 - 知的発達の全体的な遅れ、適応行動の遅れ

特性が強く、
本人が生きにくさを感じ、
周囲に理解してほしい



発達障害という診断

発達障害特性の要因と二次的な問題・二次障害



読み障害について



- 読み障害リスク

語彙の少なさ、短期記憶の弱さ、ネーミングスピードの遅さ、しりとり(?)

- 幼児に読み書きの指導は必要か？

遊びや日常生活の中で、楽しみのひとつとして教える

- どんなかかわりがいいのか？

寝る前の昔話、なぞなぞ、本の読み聞かせなど

- 避けたいこと

視覚情報の与えすぎ、動画やゲームの習慣化。早期教育？

男の子の落ち着きのなさ



- 本当にADHDは増えているのか？

増えてはいないと思われる。元々、男児は落ち着きがない

- なぜ、ADHDが増えているように見えるのか？

机上学習が早期から必要とされる社会的要因と、…

- 男の子にして欲しいこと

走り回ったり、暴れたりする体験のスケジュール化

- きめつけないで!

子どもを包括的に見る姿勢の大切さ

反応性アタッチメント(愛着)障害

- 生後5歳未満までに親やその代理となる人と愛着関係が持てず、人格形成の基盤において適切な人間関係を作る能力の障害
- 二つの群
 - 抑制型：人とかかわろうとしない。ASDに類似
 - 脱抑制型：落ち着きがない、整理整頓が苦手、すぐけんかするなど。ADHDに類似

(ADHDとの区別がむずかしい)

RAD: 裏表がある。人の顔色をうかがう。巧妙にウソをつく。
親がいるいないで態度が違ふ。

RADへの対応

- 疑わしきは児相に通報を

虐待は違法であり、止める義務がある

- 児相と連携して対応

園が中心ではない。保育には限界がある

- 園ができることを実施する

子どもができることを認め、自己肯定感を育てる

ADHDへの対応とは違った対応が必要です
マイナスからのスタート。心のケア(信頼関係の構築)

発達障害の専門機関

- それぞれの特性を知る
- 必要な情報を整理する
- 主訴を明確に
- できれば保護者と一緒に

- 資料の入手
- わからないことは質問

専門機関

市町村母子保健担当課
児童デイサービス
県教育センター
市町村教育センター
特別支援学校
児童相談所
発達障害(者)支援センター
障害者就業・生活支援センター
地域生活支援センター

専門機関の特性を知り、有効活用を

きめつけないで！



- 早期診断の困難さ

(例)2歳でASDと診断されても4歳で9%が定型発達 (Moulton,2016)

- ADHD特性：背景の多様さ

虐待、親の精神疾患、親が発達障害、家庭環境の複雑さ

- 発達障害かどうかより、子どもの困り感

(例)うまく伝えられず暴力:「暴力禁止」ではなく「伝え方を教える」

- 親を問題視するより、親の困り感

子育ての大変さに共感し、一緒に悩み、考える

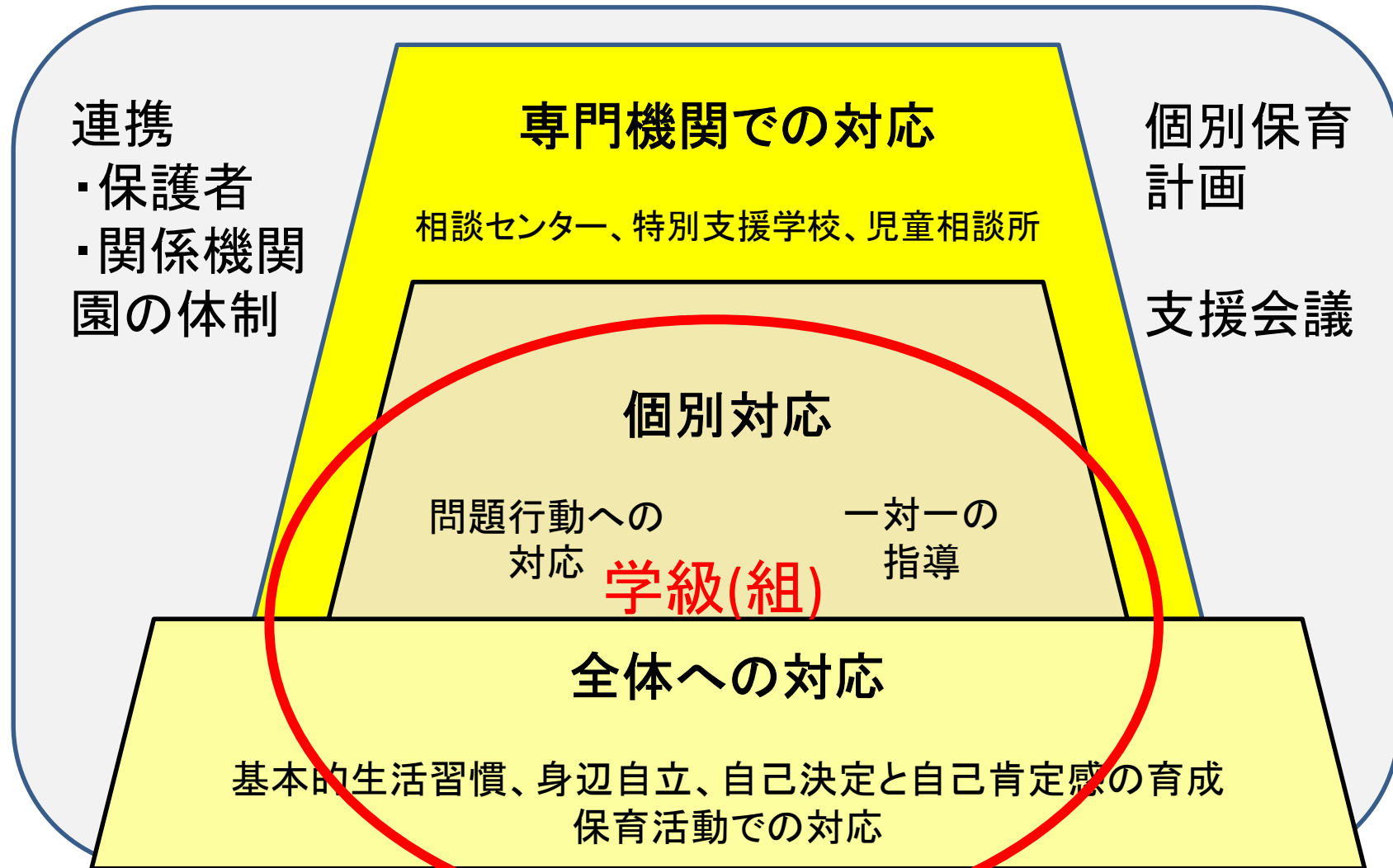


2. 全体への対応

どの子にも必要な対応

全体・小集団・個別

全体から個別への段階的な対応



幼児期の基本的な対応

1. 親との信頼関係

大人とのかかわり
子どもに信頼される親、大人

2. 身辺自立

衣服の着脱、食事、排泄
基本的生活習慣の確立

3. 基本的生活習慣

健康的な生活リズム
ルールの学習

4. 自己決定

自分のことは自分でする
自己コントロールのはじまり

4つの力を身につけることが幼児期の課題である

幼児版学びのユニバーサルデザイン

1. 伝える(多様な提示の工夫)



五感に訴える、数で示す
映像や写真、実物、イメージできるように、リズム・動き

2. 聞く(多様な意思表示)

どの子も自分の意思を伝えられるよう、保育士が支援する
(選択肢を示す、身振り表現など)

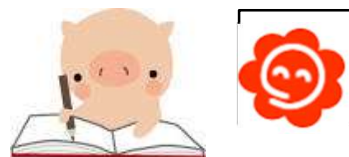
3. できる(学びの保障)

活動のはじめに、活動の見通しをもてるようにする

おやくそく

・ しましょう

1. おえかき



2. てをあげる



・ しません

1. あるく



2. おはなし



活動のはじめにゴールを示し、活動の終わりに評価する



子どもへの対応マニュアル

- 活動中の行動やできたときの対応は、基本同じに統一すること
- 問題が起きたときも、対応の仕方を事前にきめておき、同じ手続きで対処すること
- 障害の有無で区別するのではなく、結果で特別な対応を適用すること
- これらの内容を、事前に保護者に説明しておくこと

統一ルール: 保育士間で違った対応はできるだけ避ける

小集団指導の必要性

- 発達段階にそって集団が大きくなる

大人と一対一、大人を介して子ども同士、子ども同士・・・

- 集団が苦手な子どももいる

ADHD、ASD、知的障害。まだ個別が必要な段階

- 小集団は集中でき、まねしやすい

指示が通りやすく、他の子へも注目しやすい

子どもの発達段階や障害特性に合わせる
小学校で集団化を教えても遅くはない

同じ活動を別の場で小集団

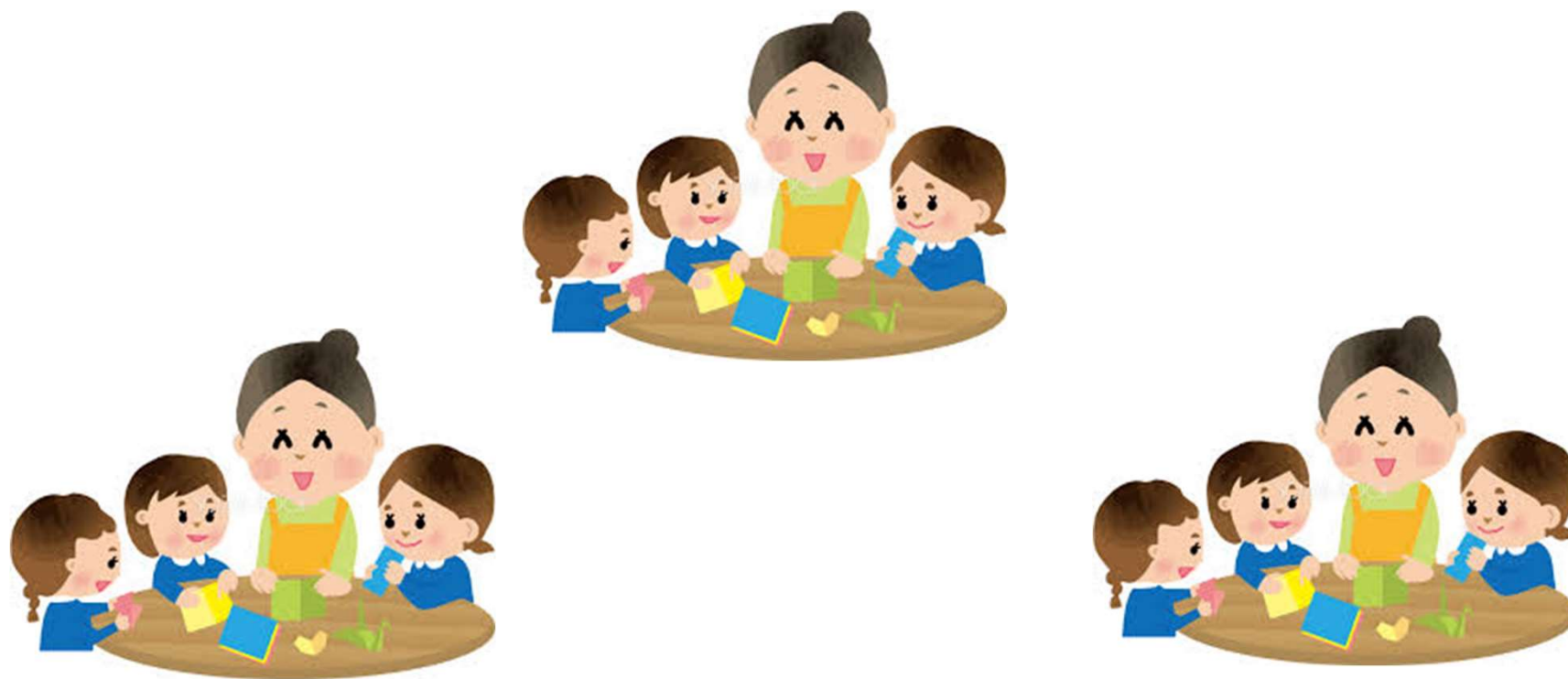


ホール



あいている部屋

同じ場で小集団



活動のはじめに担任が内容を簡潔に説明
小集団になって詳細な説明。一人ひとりの理解と反応を確かめることができる

個別化、個別にかかわる

実態把握と一対一の指導



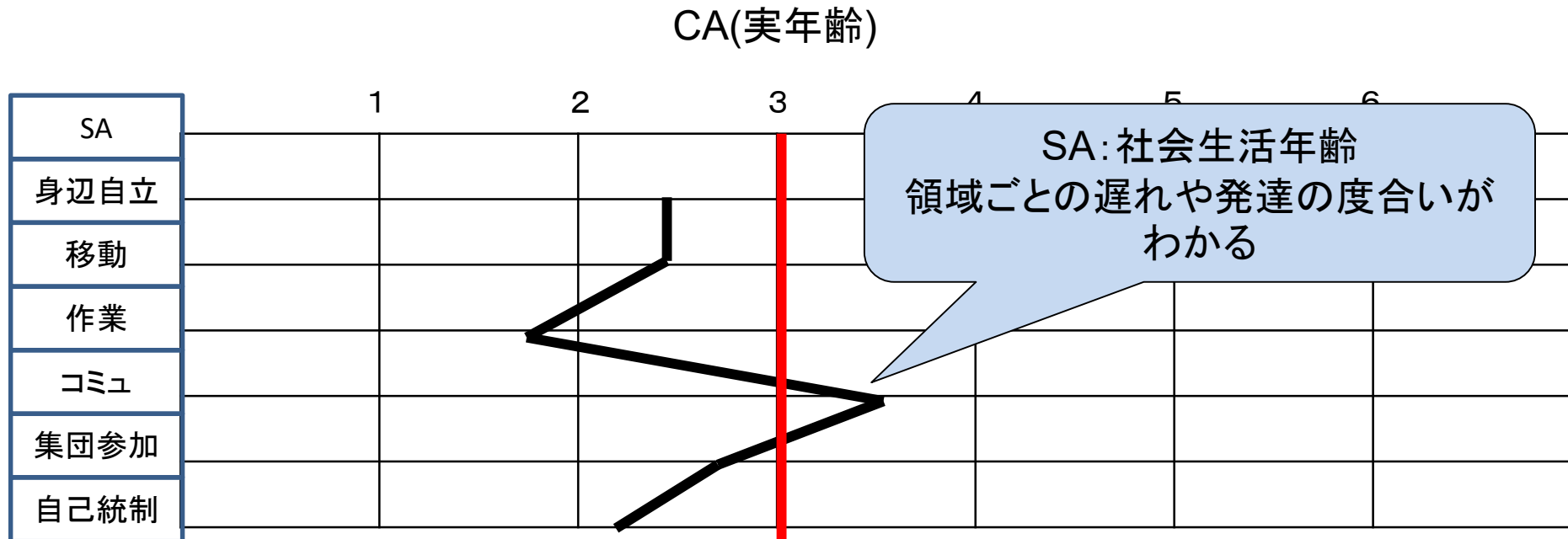
社会生活能力検査

- 社会自立のために必要な能力
 - さまざまな領域：身辺自立、移動、作業、意志交換、集団参加、自己統制([社会生活能力検査](#))
 - さまざまな[スキル](#)（技能）
- 現在できることから目標設定し、次の段階にステップアップ
 - 年齢相応をめざす
 - 個人の生活に必要な目標設定を

領域ごとに、できそうなスキルを選び指導を

プロフィール(SM社会生活能力検査)

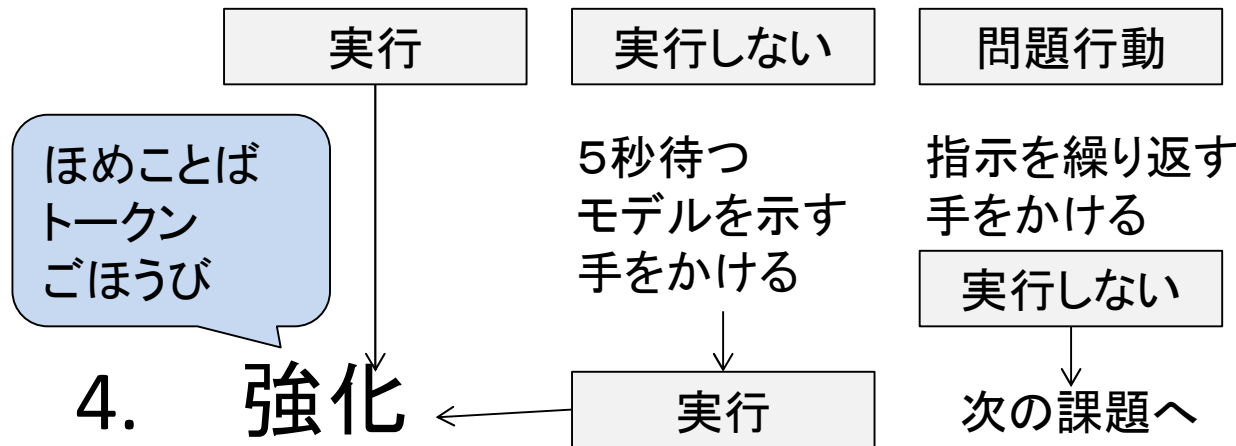
領域ごとの社会生活年齢がわかる



検査から次に教える(指導する)領域がわかる

1. 教師に注目させる
2. 簡潔な指示・必要な支援
3. 対応

視覚的の手がかり
(絵・写真カード)
手順表・カード
構造化
モデルを示す



4. 強化
5. 記録



<留意事項>

- ・必要な指示だけで余計なことは言わない。
- ・成功して終わる。
- ・できたらすぐに反応する。
- ・テンポ良く進める。
- ・援助は段階的に減らす。
- ・手順をまもる。
- ・複数課題は、小さなごほうびかトークンとし、全部終わったら大きなごほうびを。

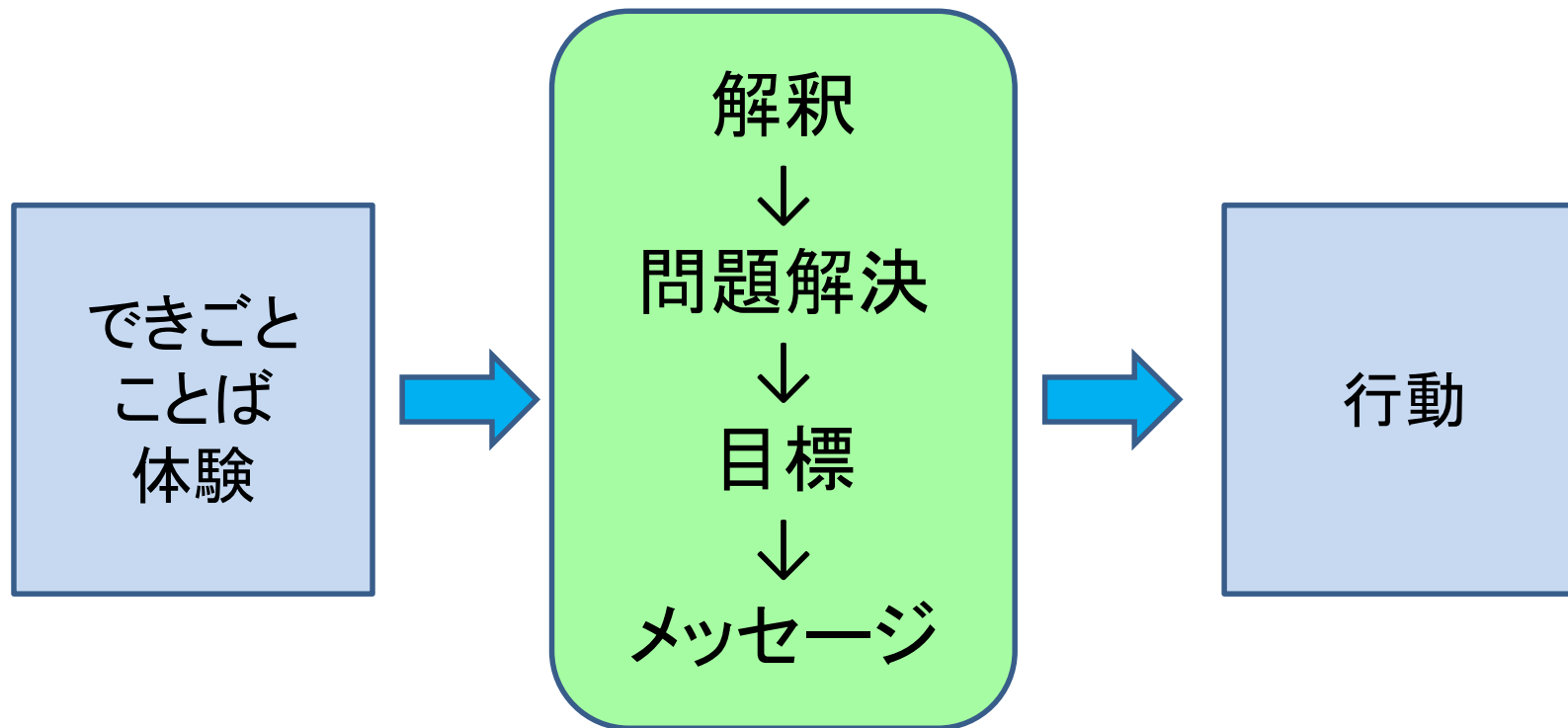
3. 発達障害の特徴と判断

知的障害

注意欠如多動性障害

自閉症スペクトラム障害

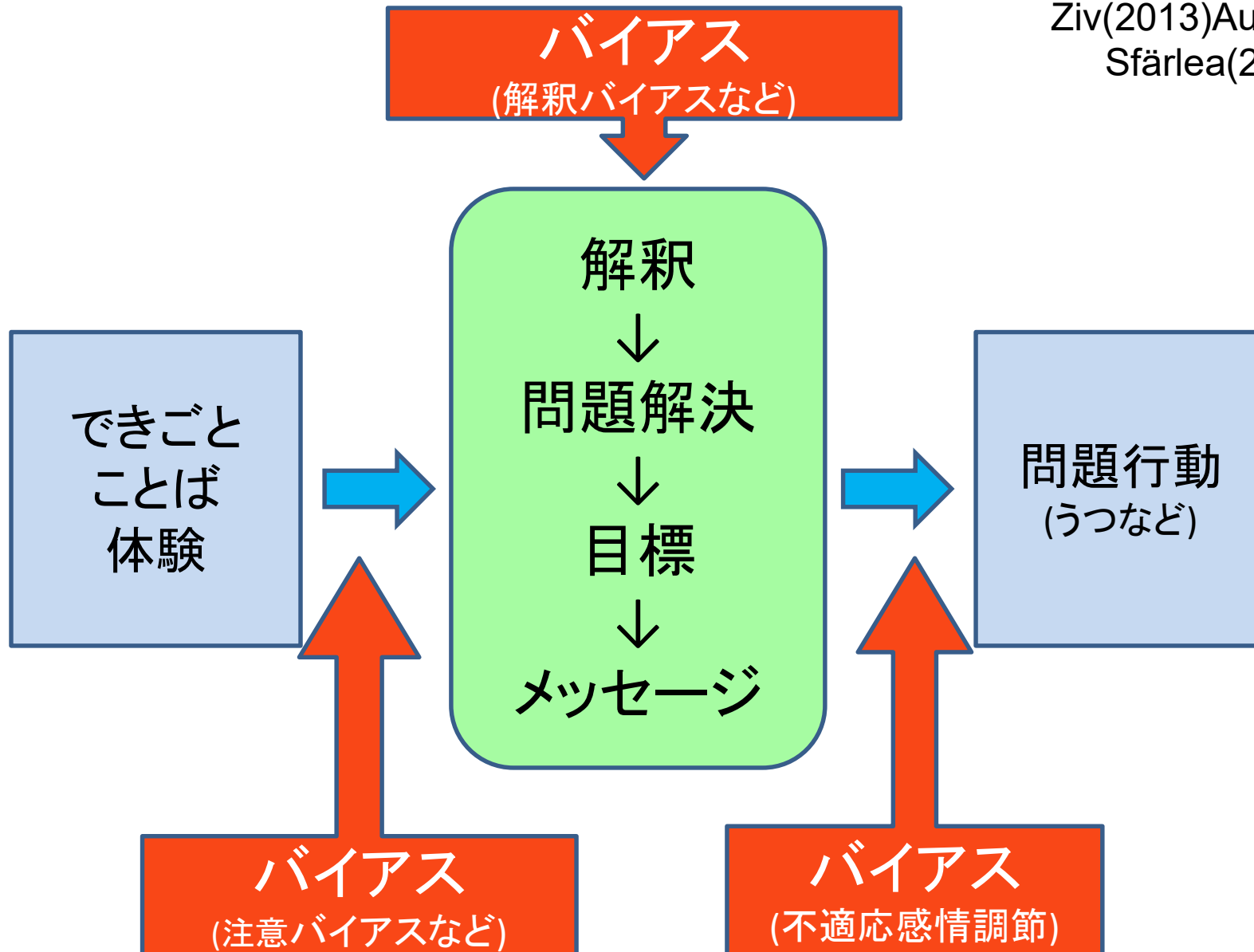
社会的情報処理理論



我々は事態を受け止め、分析し、
最良の対応をしようとする

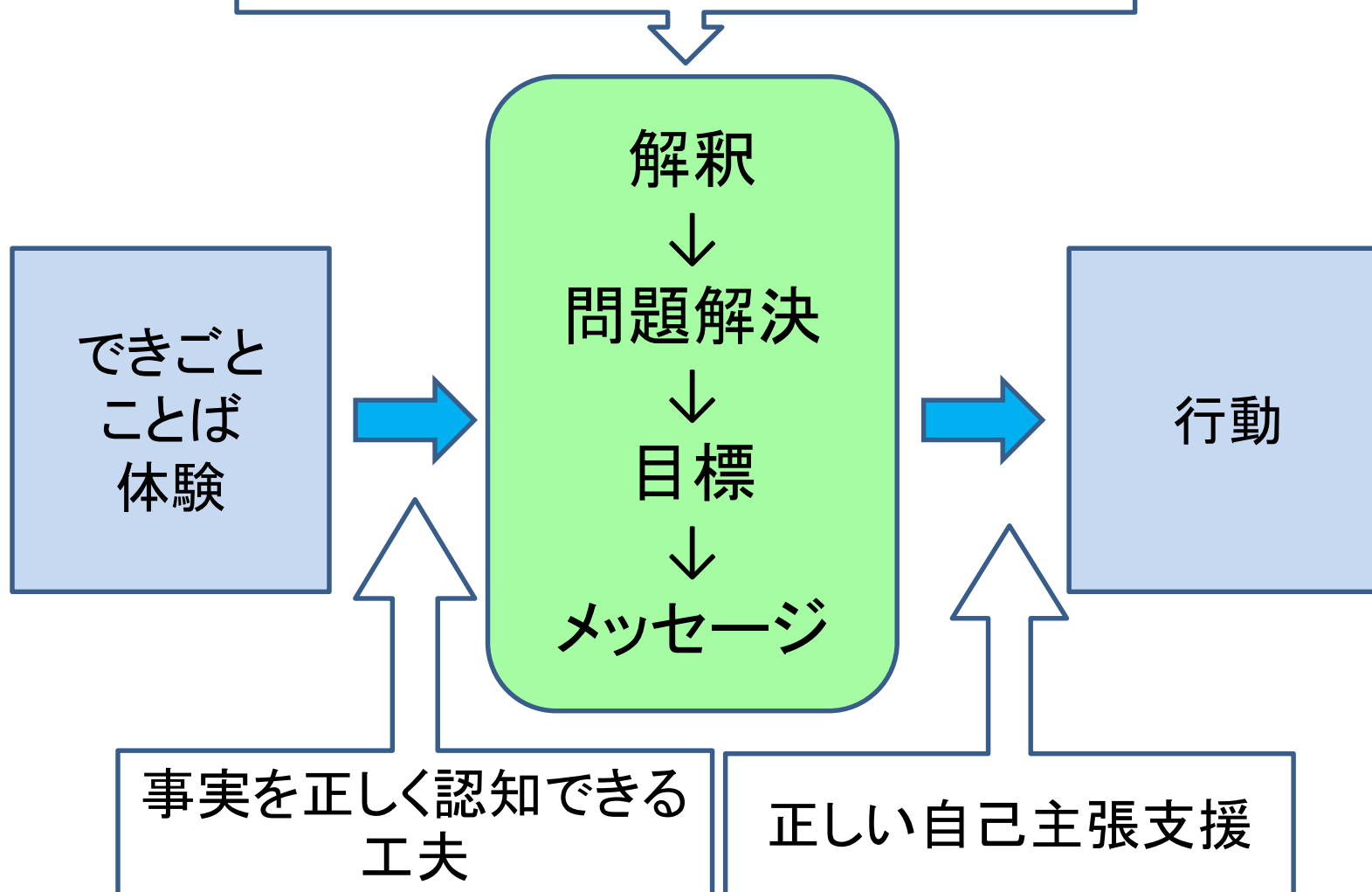
発達障害の場合

Ziv(2013)Aut.43(10)
Sfärlea(2021)



発達障害への支援

自分にとって良好な問題解決支援



3-1 知的(発達)障害(ID)とは

- 発達や知的能力が全体的に遅れている状態
 1. 同年齢の子どもに比べて著しく幼い
 2. 同年齢の子どもに比べて著しく手がかかる
- 知能指数(IQ)70未満がひとつの目安
- 検査
 1. 発達検査：[遠城寺式](#)、津守稲毛式
 2. 知能検査：[WISC](#)、[WAIS](#)、[ビネー式](#)
 3. [社会生活能力検査](#) [検査用紙\(例\)](#)

IDとは発達の全体的遅れ
1と2両方が当てはまる状態(指数で70未満)

発達検査をしてみると・・・

満2歳の子どもは、
この赤で囲まれた
ことができる

そこで、発達の
プロフィールは
平らになる

7:6				なわとび2回以上	菱形の模写	蝶と蠅、卵と石、木と草の差異 2/3	見栄を張る	重さの比較5個 2/6	マッチに点火できる
7:0				なわとび1回	糸巻きができる	色の名前がわかる 赤・青・黄・緑 4/4	お母さんが死にはしないかと心配する	音を聞いて18までかぞえる	小さな物に自分でホータイをする
6:6				40cmの高さを飛びこえる	図形の模写	用途の定義：鉛筆、コップ、机、人形、時計	立くのみみられるのを取かしがる	左右の区別ができる	歯を毎日みがく
6:0				片足立ち10秒以上	乗むすびができる	住所、住所、親の名がわかる 2/3	裸でいるのを取かしがる	了解問題：遅刻雨、こおした時 2/3	4〜5人で遊ぶことができる
5:6				つまさき立ち10秒	はさみが使える	文章の反唱 2/3	ゲームで自分の番が待てる	印刷図形の組立て 2/3	スゴロク、ができる
5:0				スキャップができる	四角・十字2つ	赤ちゃん言葉の卒業	言葉で「ぶつぞ」などとおどす	数が4つわかる	自分で着脱できる
4:6				片足で5歩とべる	四角・十字いすれか1つ	接続詞や助詞を使う	「こうしていい？」と許可を求める	形あわせ 2/10	排便の自立
4:0				片足で2、3秒立てる	ボタンはめができる	自分の姓名がわかる	弟妹にしつとを示す	重さの比較 2/3 8g, 15g	排尿の自立
3:6				30cmの高さからとび降りる	まねして横に線をひく	代名詞これ、あれ、僕、私などを使う	新しい着物、おもちゃなどを自慢しがる	数が2つわかる	靴が一人で脱ぎ履きできる
3:0				両足を一時に上げてジャンプする	頁を1枚ずつめくる	二語文を話す	手を叩き、足をふみならして大きさに表現する	上中下前後を理解する 2/3	おはしの使用ができる
2:6				指紋を手すりにつかまって昇降する	ピンにコルクの栓をさす	目、耳、鼻、髪を全部指示する	叱られるとふくれ	3つの絵を言う	スプーンと茶碗を持って口へ運ぶ
2:0				走る	横木を3つつむ	助詞ができる	人形やおもちゃを抱いたりして愛情を示す	絵本を見て1つのものを指示する	排尿の手づかをする
1:6				ひとり歩き(外で自由に)	なぐり書きする	四語言える	自分で自己流ことやおいで、ねんね、ちょうだい 2/3	要求を理解する：おいで、ねんね、ちょうだい 2/3	パンツをはかせるとき両足をひろげる
1:8				ひとり立ち、ひとり歩き(室内で)	親指とひとさし指でつまむ 2cm 横木	二語出る	はめられると何度品物をひもでひっかける	品物をひもでひっかける	自分の名前がわかる
0:0				ねた位置から起きあがる	箱のふたをとる	一語出る	未知の人を取かしがる	つままれたおもちゃをとる	父母兄弟(身近な人)がわかる
11:0				這う	1つのものを持ち、もう1つのものを取る	バイバイに反応する	おもちゃをとられて不快を示す	好きなおもちゃの方をとる	未知の人を恐れる(人見知り)
9:0				ひとりですわる 30秒	物を一方の手から他方へうつす	Ma や Mu を声に出す	手足をバタバタさせてよろこぶ	まねして机を叩く	聲を見て笑ったり話しかけたりする
7:0				ねがえりする	がらがらを振る	人にむかって音声を出す	音楽を聞くとクワクワいうてよろこぶ	いないいないばあをよるこぶ	親しみと怒った顔がわかる
6:0				ひざの上ですわる	手をのぼしてつかむ	渴望を声に出す	大きな音におそれを示す	反復されたものを期待する	人をみると笑いかける
0:5				足をつばってひざの上立つ	指の間に入れたものをつかむ	キャーキャー言う	母乳をよるこぶ	色板を無色板よりよく見る	室内で歩く人を目で追う
0:4				首がすわる	おもちゃをつかんでいる	声を出して笑う	お面をみておどろく	ふれたものにさわる	人をじっとみつめる
0:8				腹這いで90秒頭をあげる	手や指をもてあそぶ	Bu Bu, Ku Ku を言う	笑う	動くものを目で追う(180°まで)	あやされると笑う
0:2				体をおこしたとき頭を保つ	顔にふれたものをつかむとして手をうごかす	呼びかけると反応する	布をかけられて不快を示す	動く毛糸をじっとみつめる	あやされると静まる
0:1				腹這いで顔をちょっと上げる	手にふれたものをつかむ	泣き声で区別がつく	お乳をとられて不満を示す	弱い光をみつめる	満足してよくねむる
0:0									
年月	生移手言情知社	移動運動	手の運動	言語発達	情意の発達	知的発達	社会的発達		
	活動の語意的社会的発達発達発達								
	年運運発発発								
	令動動達達達達								
		EQ	EQ	EQ	EQ	EQ	EQ		

発達の様子

遠城寺式
発達検査

遠城寺式・乳幼児分析的発達検査表

認知の偏り

氏名	性別	外来 No.	検査日	検査項目				備考		
				①	④	⑤	⑥			
生年月日	昭和	年	月	日生	病名					
7:6					なわとび2回以上	象形の模写	蝶と鱈、卵と石、木と草の差異 2/3	見栄を張る	重さの比較5個 2/5	マッチに点火できる
7:0					なわとび1回	糸巻きができる	色の名前がわかる 赤・青・黄・緑 4/4	お母さんが死にはしないかと心配する	音を聞いて18までかぞえる	小さな物に自分でホータイをする
6:6					40cmの高さを飛びこえる	図形の模写	用途の定義:鉛筆、コップ、机、人形、時計	立くのをみられるのを取かしかる	左右の区別ができる	歯を毎日みがく
6:0					片足立ち10秒以上	乗むすびができる	年齢、住所、親の名がわかる 2/3	裸でいるのを取かしかる	了解問題:遅刻雨、こおした時 2/3	4~5人で集団遊びができる
5:6					つまさき立ち10秒	はさみが使える	文章の反唱 2/3	ゲームで自分の番が待てる	印刷図形の組立て 2/3	スゴロク、カルタができる
5:0					スキップができる	四角・十字2つ	赤ちゃん言葉の卒業	言葉で「ぶつぞ」などおどす	数が4つわかる	自分で溜物を流す
4:6					片足で5歩とべる	四角・十字いずれか1つ	接続詞や助詞を使う	「こうしていい?」と許可を求める	形あわせ 8/10	排便の自立
4:0					片足で2、3秒立てる	ボタンはめができる	自分の姓名がわかる	弟妹にしつとを示す	重さの比較 2/3 8g, 15g	排尿の自立
3:6					30cmの高さからとび降りる	まねして横に線をひく	代名詞これ、あれ、僕、私など使う	新しい溜物、おもちゃなどを自慢してあげる	数が2つわかる	靴が一人ではける
3:0					両足を一時に上げてジャンプする	頁を1枚ずつめくる	二語文を話す	手を叩き、足をふみならして大きさに表現する 2/3	上中下前後を理解する 2/3	おはしの使用ができる
2:6					指紋を手すりにつかまって昇降する	ピンにコルクの栓をする	目、耳、鼻、髪を全部指示する	叱られるとふくれ	3つの絵を言う	スプーンと茶碗を持って口へ運ぶ
2:0					走る					音をする
1:6					ひとり歩(外で)					はかせるをひろげ
					ひとり立ち(室内で)					前がわか
					ねた位置でつわる					(身近な)
					這う					を恐れる(り)
					ひとりて30秒					突ったりする
					ねがえり					怒った顔
					ひざの上					と笑いか
					足をたばってひざの上に立つ	指の間に入れたものをつかむ	キョーキョー言う	母顔をよるこぶ	芭板を無巴板よりよく見る	室内で歩く人を口で道う
					音がすわる	おもちゃをつかんでいる	声を出して笑う	お面をみておどろく	ふれたものにさわ	人をじっとみつめる
					腹這いで90秒頭をあげる	手や指をもてあそぶ	Bu Bu, Ku Kuを言う	笑う	動くものを目で追う(180°まで)	あやされると笑う
					体をおこしたとき頭を保つ	顔にふれたものをとろうとして手をうごかす	呼びかけると反応する	布をかけられて不快を示す	動く毛糸をじっとみつめる	あやされると静まる
					腹這いで顔をちょっと上げる	手にふれたものをつかむ	泣き声で区別がつく	お乳をとられて不満を示す	弱い光をみつめる	満足してよくねむる
年月					移動運動	手の運動	言語発達	情意の発達	知的発達	社会的発達
					EQ	EQ	EQ	EQ	EQ	EQ

そこで、発達のプロフィールは上と下の差が大きく、波打っている

このことを「発達(認知)の偏り」という

発達障害の子どもは、おおむね標準なのだが、できない項目があったり、年齢よりできる項目があったりする

制約からの困難と必要な支援

- 困難
 - 習得した知識やスキルが偏ったり断片的
 - 実際の生活に応用されにくい
 - 具体的実用的な内容が習得されやすい
- 考えられる支援
 - 生活に基づく指導、多様な生活経験
 - 成功体験、得意とする活動・慣れている活動、興味関心
 - 視覚的の手がかり、成功して終わる

知的障害の子どもへの対応

赤ちゃん扱いは人権侵害

- 年齢相応の扱い
- 知的能力(精神年齢)にあった教え方
- 生活に役立つスキルを教える
- できることから始め、できたときは必ずほめる
- スモールステップで教える
- 体験を通して教える

理解できる説明

成功体験が大事

一緒に遊ぶ、作るなど

みんなと同じ、でもわかるように。発達段階に応じた支援

発達段階にあった遊び支援

- ひとり遊び

子どもにあったおもちゃ、遊び方を見つけるレパートリーを増やす。一緒に遊んで楽しむ

- 傍観・並行遊び

関心を持たせる。その遊びを十分楽しませる。物の貸し借りを仲介する。相手を意識させる

- 連合遊び

遊びの目的(主旨)を明確にする
必要最小限のルールを確認する

- 協同遊び

遊びの目的とシナリオ、役割を明確にする
ルールや方略を一緒に考える。役割交代。

発達段階に合った遊びを大切にし、次のステージへ

遊びの例

- ひとり遊び

がらがらなど音の出るおもちゃ
新聞紙や水、まめなどの素材
ひとりで遊ぶ遊具

- 傍観・並行遊び

砂場。積木

- 連合遊び

一緒に家などをつくる。簡単なごっこあそび

- 協同遊び

かくれんぼや鬼ごっこ。役割のあるごっこあそび
カードゲーム、ボードゲーム

発達段階に合った遊びを大切にし、次のステージへ

(参考)お父さんと遊ぶと・・・

言語発達にプラス

(子どもの)人間関係に
プラス



問題行動にマイナス

3-2 注意欠如多動障害 (ADHD) とは

- 不注意
 - 不注意、注意の持続の困難
 - 聞いていない、物事をやり遂げられない
 - 順序立てられない、物をなくす、忘れる
- 多動
 - もじもじする、座ってられない、高いところに上がる
 - 静かに活動できない、しゃべりすぎる
- 衝動
 - すぐ答える、順番を待てない
 - 他人を妨害する、がまんできない、ゆっくり活動できない

ADHDとは自分の行動が抑制できない障害

ADHDによく見られる特徴

- ぼんやり、注意散漫タイプ

声をかけられても気がつかない、話を聞いていない(他のことに注意がむく)、自分の作業より他人のことが気になる、遊びが持続しない、食事に集中せずに遅い、ものやおもちゃを置き忘れる

- キレやすく衝動的なタイプ

おしゃべり好きで話に割り込む、集団活動で順番が守れない、ものの貸し借りが苦手、食べながらもおしゃべり、一定の場所にじっとしていない、すぐに飛び出す、すぐに乱暴する、乱暴なことばづかい

- 混合タイプ

ぱっと行動しすぐに別の動きが出る、座っていても指遊び手遊び、興味が次々に移る、常に動き回りちよっかいを出す、いただきますが待てない、好きなことには集中する

見極めがむずかしく、専門機関で判断を

ブレーキをかける、維持する、褒める

- 事前の約束と確認

約束：時間になったら座る。「先生との約束、覚えてるよね？」

- 活動中の声かけ

「ちゃんと座っているね」「先生との約束、守っているね」

- 活動終了時の振り返り

「今日はちゃんと座っていて、いい子だったよ」

- 段階的に時間(期間)延長

一つの活動 → 午前中 → 一日 → 今週

事前、活動中、事後に対応 = ブレーキをかける

集中できる環境・条件

- 気が散らずに集中できる教室

壁面を簡素化し、整理整頓を徹底。カーテンで隠す、必要なときだけ提示

- 集中できる場所、位置

座席の配置。保育士との位置関係。他児との位置関係

- 必要なときには個室を使う

集中すべき時は別室。教室の隅で。ついたてを立てて。

- 活動にメリハリをつける

静・動の繰り返し。集中を促したら集中やめ。ブレイクタイム

問題行動の自己解決(基本)

- 感情的にならず冷静に

「何があったか、ゆっくり話してごらん」(じっくり聴く)

- 何が悪いのかを本人に気づかせる

「それはあなたにとっていいことかな」「どんな約束だったの？」

- どうすればよかったのか(次どうするか)本人と考える

対応の仕方をいくつか提案して選択させる(できること)

- 少しでもできたことを誉めてのばす

「よく我慢できたね」「今度ははっきり言おうね」

なぜやった「Why?」ではなく、今後どうする「How?」

して良いことを教える

- 子どもの問題行動は間違った自己主張
- 何を訴えたいのか、よく話を聴くこと
- 問題行動を正すのではなく、正しい自己主張を教えること

わからないときに大騒ぎ

「『教えてください』って、言うんだよ」

話をよく聴く

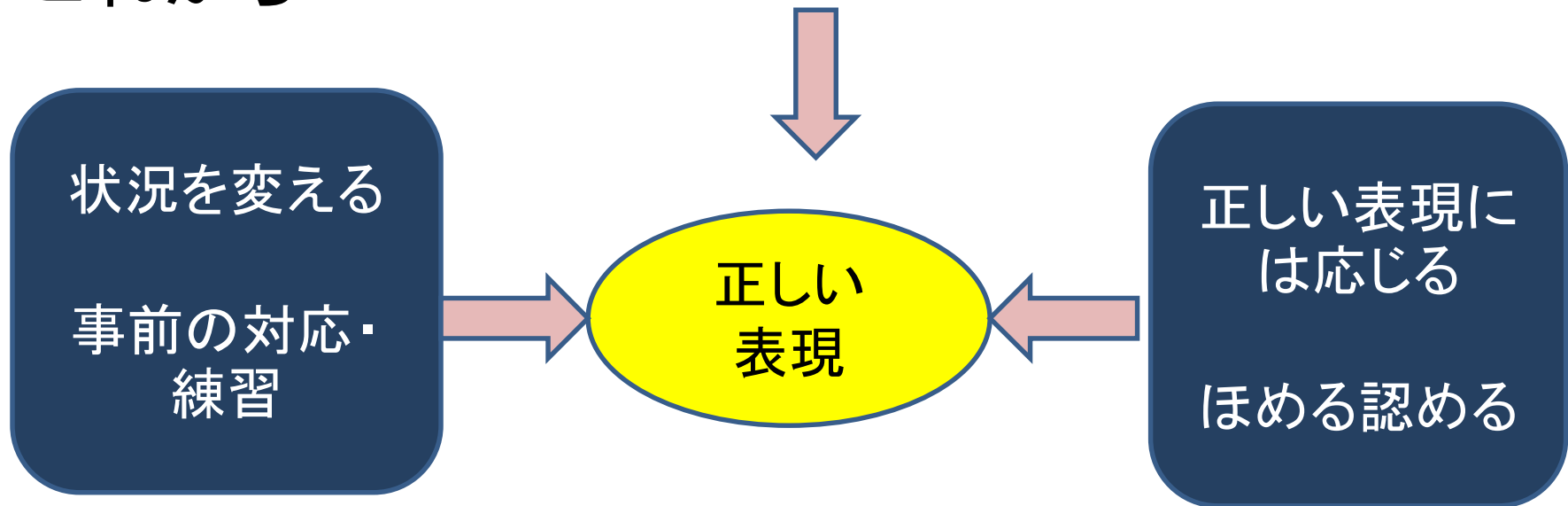
「～してはいけません」 → 「○○しましょう」

困った行動への対応

- 現在



- これから



悪い流れを作らず、よりましな行動をほめる・認める



トークンシステム

- 約束を守ったりきめられた活動をするポイントがもらえる
 - シール、スタンプなど
- ポイントをためると数に応じたごほうびや権利がもらえる
 - キャラクターシール、カード、ゲーム30分など
- ものを与え、できた(守れた)ことをしっかりほめること

トークンシステム (例)



めあて
・手をあげて発言しよう。
・だまって、じゅぎょうをう
けよう。

← いろぬりをしてね!!

								10まい
								20まい
								30まい
								40まい
								50まい
								60まい
								70まい
								80まい
								90まい
								100まい

- ☆シール10まいで、ポケモンカードがもらえるよ。
- ☆シール50まいで、ポケモンの本がもらえるよ。
- ☆シール100まいで、ポケモンのおもちゃがもらえるよ。

タイムアウトとは



- 別室に移動させる(活動から離す)
- 一時的に権利を制限する教育的な罰
- クールダウン、約束確認後すみやかに復帰
- 手続き
 - 警告→別室移動
 - 話を聞き、クールダウンをはかる
 - 戻るかどうかを本人にきめさせる
 - 教室では自然に受け入れる

説教はしない
じっくり話を聞く

「何がいやだったの
かな」
「そう、あっちに行
けて言われたの」
「どうする、戻る？」

安全な部屋に移動させ、職員が必ずつくこと

3-3 自閉スペクトラム障害 (ASD) とは 映画

1. 社会的コミュニケーション、相互作用の障害

- 社会的感情の相互関係の欠如 (失感情症Brett(2021))
- 非言語コミュニケーションの問題
- 年齢相応の社会関係の困難さ

2. 行動の特異性 (同一性保持、こだわり)

- 儀式的行動
- 常同的な反復行動
- 感覚の特異性(92%)
- 興味関心の特異性、狭さ

DSM-Vによる

は [映画](#)

相手の気持ちを推測する、理解する、共感する
相手の気持ちが自分に伝わる・同じ気持ちになる

1. 社会的コミュニケーションの障害

- 社会的感情の相互関係の欠如 (失感情症Brett(2021))
- 非言語コミュニケーションの問題

表情の読み取り、服装や髪型などから相手の状態を
推測する、ことばの奥に隠された意図を読み取る、
空気を読む

儀式行動

- 常同的な反復行動
- 感覚の特異性(92%)
- 興味関心の特異性、狭さ

DSM-Vによる

知的能力が高いASDの特徴

- 場の空気が読めない(嫌がっているのに気がつかない)
- 暗黙のルールがわからない(順番に話す、など)
- 思ったことをすぐ口にする(「どうしてハゲてるの?」)
- 話が一方的である(自分の興味のある話だけ)
- 昆虫の名前、国旗など抜群に記憶力がいい
- ひとりで遊んでいることが多い(一人遊び、マニアックな遊び?)
- 変化を嫌う(ものや行為へのこだわりがある)
- 急に予定が変更になるとパニックを起こす

能力の著しい偏りから、対人関係、情緒の問題を引き起こす

知的な遅れのあるASDの特徴

- 視線が合わない、合わせようとしない
- コマーシャルなど、場に合わない独り言を言う
- ことばがなく、奇声をあげる
- 特定のもの(水、鍵、食べ物など)にこだわる
- 回るもの、光るものに強く関心をもつ
- 人に対する関心が乏しい
- 意味のない空虚な笑いが見られる
- 同じ動きを繰り返す(くるくる回るなど)

知的な遅れや能力の著しい偏りから、社会適応が困難になる

指導の基本①: 簡素化

- 環境の整備、設定

活動に必要な物だけを置くこと

- 課題の始まりと終わりがわかるように

がんばって最後まで → 「5枚貼りましょう」

- 結果に対して素早く対応

「それでいいんだよ」「違います。〇〇だよ」

- 成功には賞賛、ご褒美を

設定も課題も対応もシンプルに

指導の基本②スモールステップ

ズボンを腰まではかせたとき、ファスナーをあげる

ズボンを膝まではかせたとき、腰まで上げてファスナーをあげる

ズボンに両脚を入れてあげたとき、自分であげてファスナーを閉める

ズボンを広げてあげたとき、両脚を入れてはく

「ズボンをはきなさい」と言ったとき、ズボンをはく

順番に強化：少しずつ基準をあげる＝支援を減らしていく

指導の基本③見て理解できるように

- スケジュール表を活用する
- 絵に描いて説明する
 - 絵カード、4コマ漫画
- 文章にして教える
 - ソーシャルストーリー
- 話を図に整理して考えさせる
 - 認知行動療法

療育教室



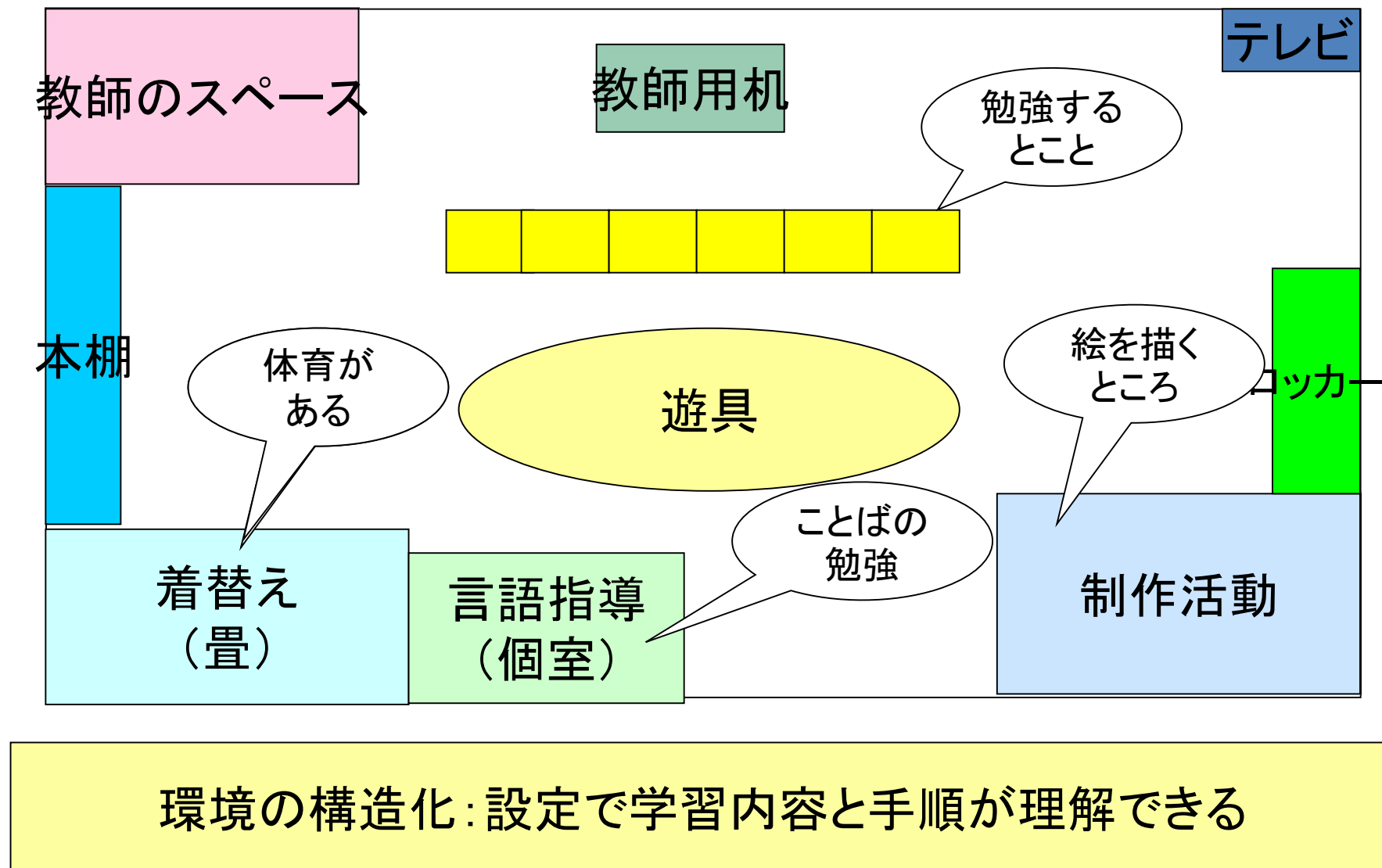
視覚教材は他の子どもにとってもわかりやすい
音声ガイダンスという方法もある

(参考)ICTの活用



- ビデオ
 - ビデオモデリング: お手本を見せる
 - 結果がわかりやすいこと
 - ビデオモニタリング: 自己の様子を見て振り返り
 - 課題従事行動自己管理アプリ
- コンピューター(スマートフォン、タブレット型)
 - 言語能力、数処理能力を高める
 - VOCA(コミュニケーションツール)
- インターネット
 - Webサイトの活用

教室の構造化

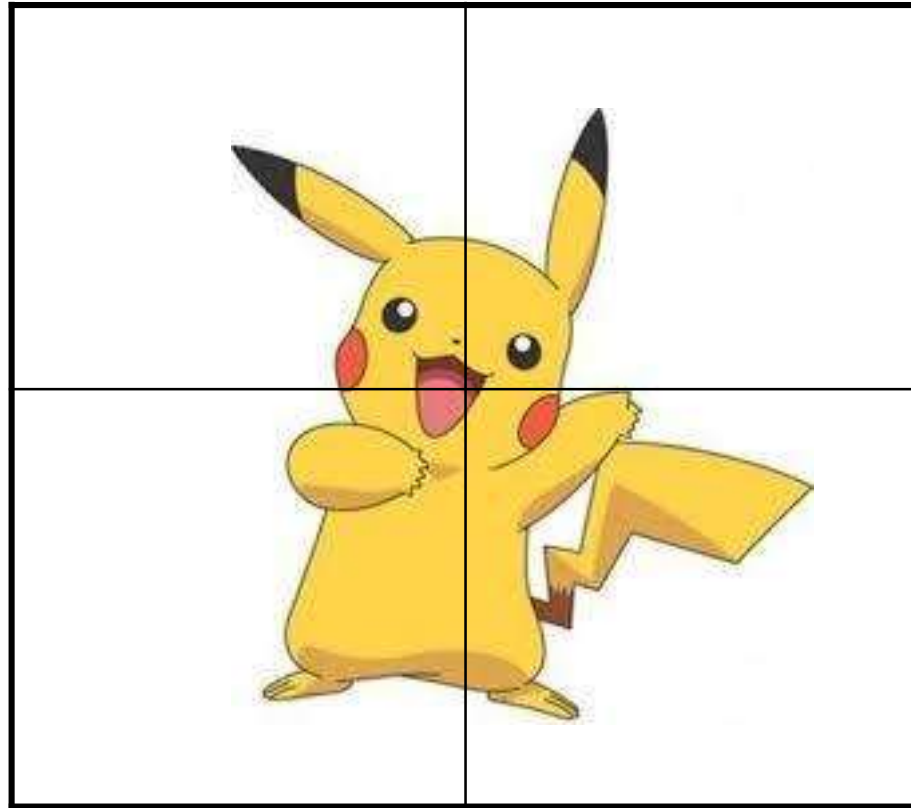


指導の基本④：強化

- 子どもの行動生起頻度を上げる行為
- ものとかかわり
 - おやつ、飲み物、ご褒美
 - ほめことば、スキンシップ、名誉
- 与え方にも工夫が必要
 - 回数(毎回、〇回に1回)、タイミング(すぐ、遅らせる)
 - 内容(何を与えるか)、量(どのぐらい与えるか)

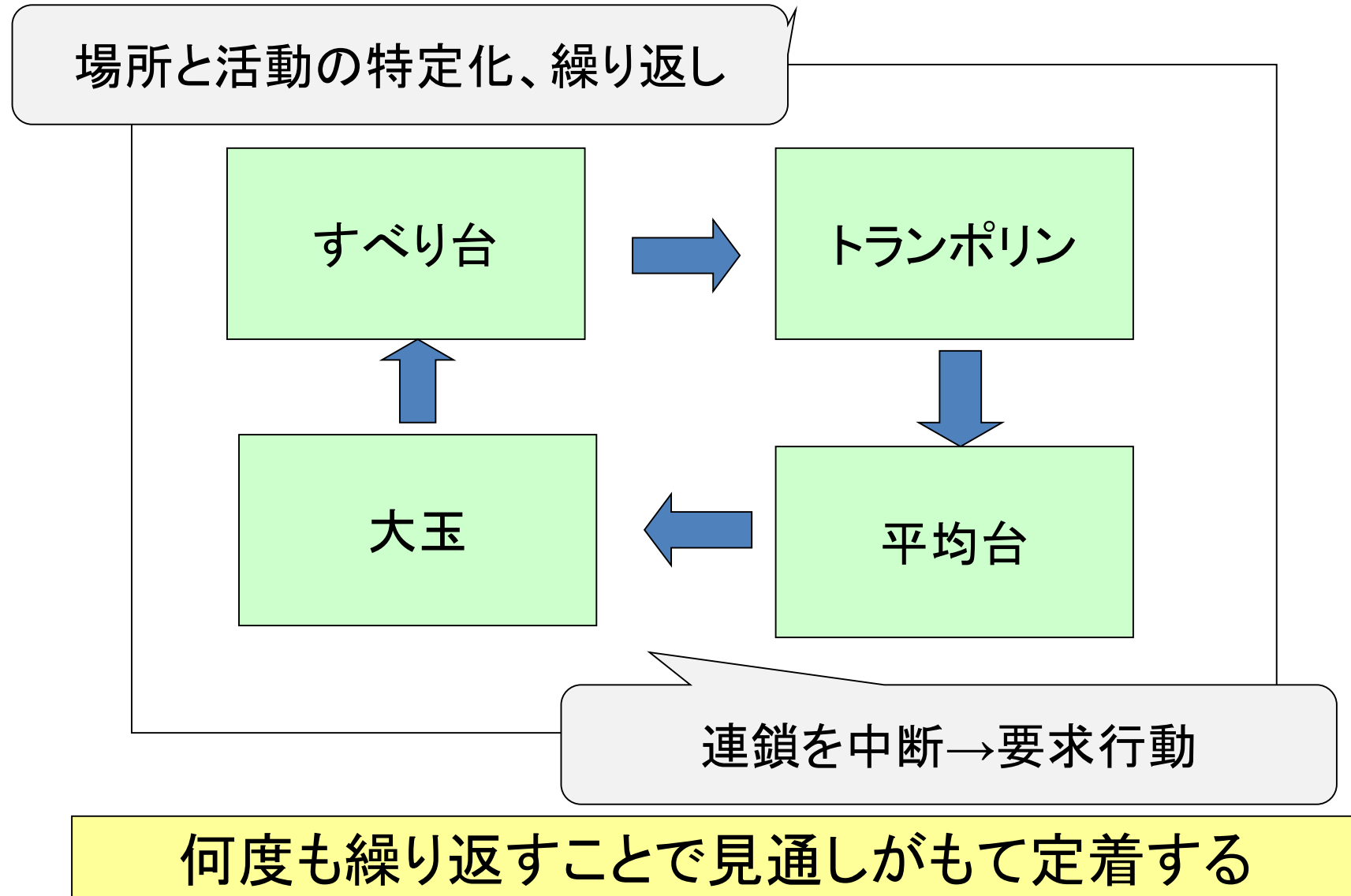
強化とは子どものやる気を育てるかかわり
わかりやすいごほうび(もの、内容)を！

分割強化子



うまくできたときに、4分の1を与える
4枚そろったら、シールがもらえる

指導の基本⑤繰り返しの原理



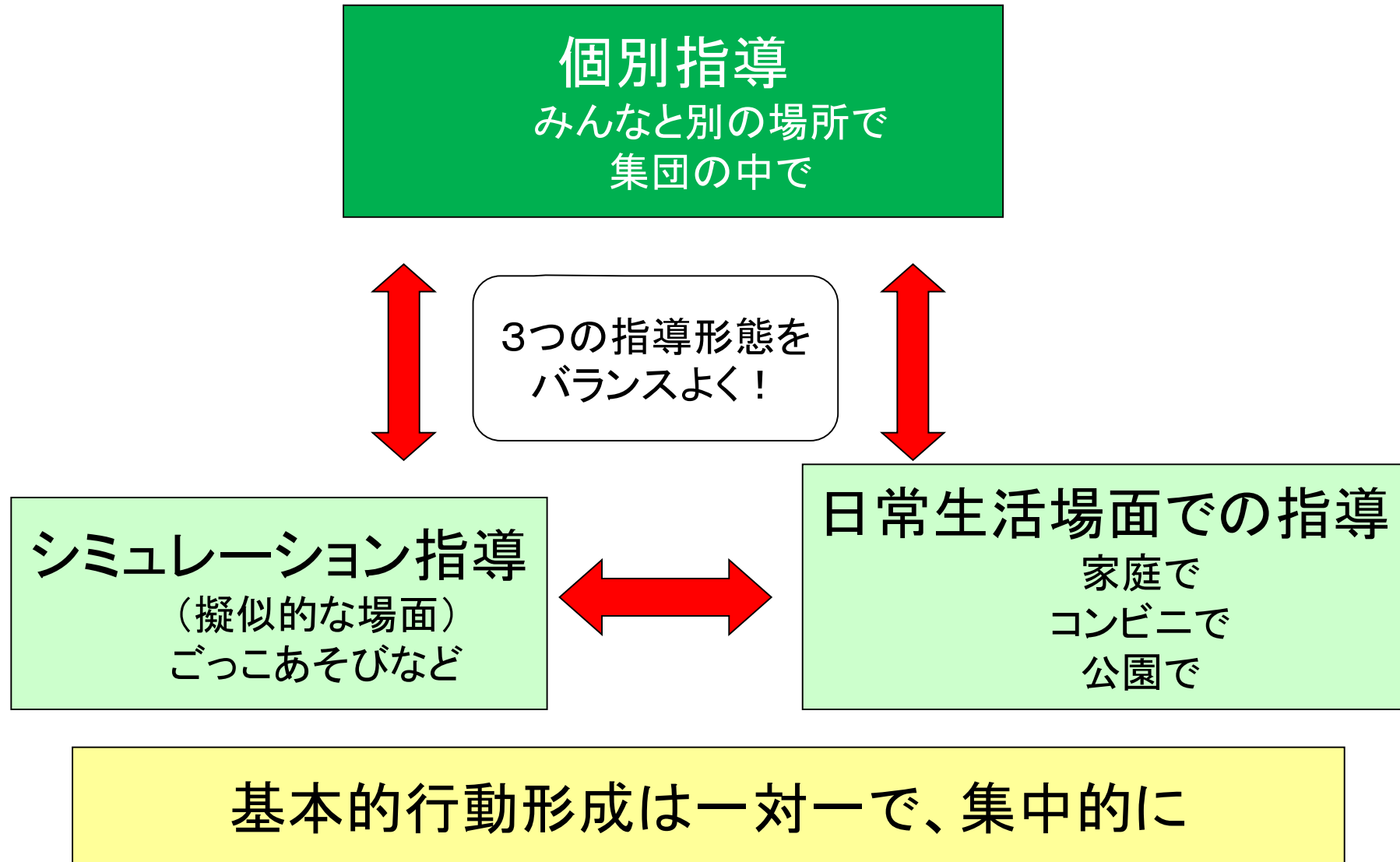
生活の中で 繰り返し行われる活動の例

- 家庭で
 - 日課: あいさつ、食事、身支度、遊び、お風呂
- 保育園、幼稚園で
 - 朝の会・帰りの会、給食、掃除
 - 制作活動、音楽活動、運動
 - 自由遊び、設定保育の遊び

子どもが好きな遊びは、同じパターンの繰り返し

繰り返される活動の中で、シナリオを作り、適切なことばを教える

指導の基本⑥：個別指導



保育園・幼稚園にも通級教室を

- ASDは集団や「みんなで」が苦手

感覚の特異性、過敏性

- 集団活動や「同じ」を強要しない

強要するとパニックを起こし、不適応行動につながる

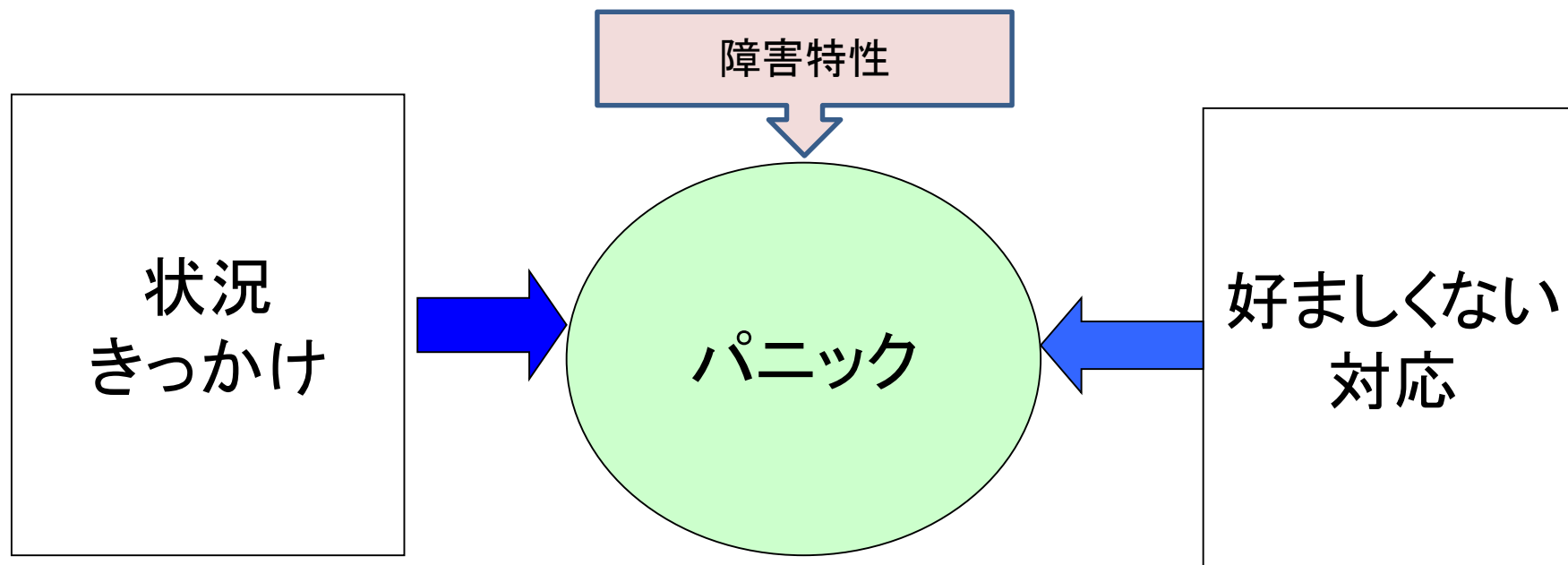
- 別室での活動を保障する

子どもの興味関心に基づく課題で集中できる

- 集団活動は小学校で始めても遅くない

別室活動と集団活動を計画的に。「排除」ではない

パニックへの対応



因果関係、事実の確認
パニックを起こさない事前の対応

パニックの原因と対応

事前の対応が重要。起きたら
クールダウン・居場所、避難場所

見通しがもてない	スケジュール表
予期せぬ事態、予想外の出来事	リハーサル フローチャート
能力以上の課題	能力にあった課題
誤った現状認識、認識できない	視覚教材 認知行動療法
人の中にいるのがつらい	居場所の提供
指示、話の意味が分からない ことばで伝えられるように！	具体的な会話 視覚教材
感覚特性によるもの	特性への配慮

かんしゃく

- 子どもの実態：情報がそろっていない(部分部分欠けている)、整理できていない、相手の意図を読めていない、その結果動けない・説明できない
- 必要な情報を一つ一つ視覚化し(ホワイトボードなど活用)、子どもに確認し、情報をわかりやすく説明して、どうすればいいのかを一緒に考える



3-4 発達段階別の対応



© Can Stock Photo

乳幼児期の対応の基本

- ことばの表出よりことばの理解、指示理解を
- 子どもと行動や注意の共有、ことばで表現してあげる
- 繰り返しによるパターンの形成
- 一対一の信頼関係、「みんなで」を強要しない
- 早期対応、集中訓練 ストレスになる(Schupp,2013)

応用行動分析(ABA)に基づく訓練など

認知特性に応じた対応。応用行動分析
早期対応、集中訓練

学齡期の対応(ASD)

- 小学校
 - 生活習慣の確立、見通し、学校適応
 - 健全な親子関係
- 中学校
 - 自分について知る(長所、短所)
 - 趣味を同じくする友達関係
- 高等学校
 - 自己認識、自己理解を深める
 - 特性にあった進路選択

就労: 自閉特性や問題行動の改善、適応行動向上(Taylor,2014)

4. 保護者との連携



一緒に子育て
個別保育計画の作成と評価

保護者と連携(理念)＝協働作業

- 保護者の立場を尊重する
- まず聴く
- 保護者の願いを知る
- 解決のゴールを共有する
- お互いの立場でできることを考える

原因追及より解決を優先する

- 情報は事実の共有

主観や意見を排除し、時系列的に事実を確認する



立場の違いを認め合い、ビジョンを共有し、それぞれができることを考える

親を支援する

- 相談の窓口を作る

話しやすい関係、設定、複数手段の確保

- まずはじっくり聴く

相手に関心を持つ、相手の立場に立つ

- 一緒に考え、必要に応じて**情報提供** 療育教室

ほめ方・叱り方・聞き方、遊び方、しつけ……。PT

- 必要なら専門機関の紹介を

情報提供。一緒に行くことも検討する

親は子どもの真の願いを理解しているか？

様々な親支援

- 情報提供

福祉制度、特別支援教育、専門機関など

- かかわり方の見直し

聞き取りから、状況→問題行動→対応→結果を示す

- 遊びの宿題

園での遊びの情報、子どもと遊べる教材・本の提供

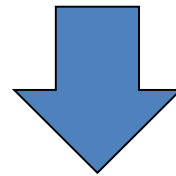
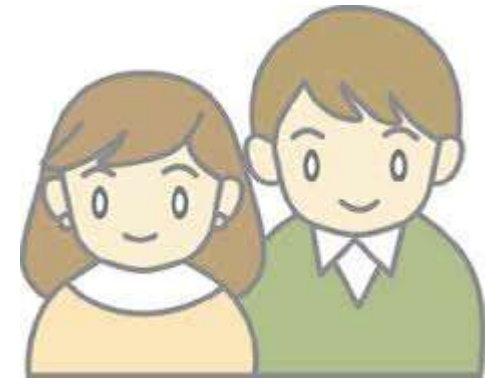
- 生活の見直し

話し合いを元に、生活の改善を一緒に考える

寄り添える相談相手、身近な支援者、頼れる肉親

父性と母性(余談)

- 母性: 無条件の保護 = やさしさ
- 父性: 条件付きの愛情 = 厳しさ



父性: 子どもを安心させる愛着

母性: ひとりの人間としての自律性

愛情より、「安心」を保障

本来の「あなた」を大切に

- 人はさまざまな「役割」を演じている

先生、課長、チーフ、主任、・〇〇さんの奥さん…

- いつしか「〇〇ちゃんのお母さん」の役だけ演じている

「私って、なんていう人だったかなあ????」

- 結果、自分の生き方に自信が持てない人が増えている

自己肯定感の低下。そのためにしがちなことは…

本来のあなたの姿、生き生きと
活動(仕事、趣味)している親を見て、子どもは自立する

境界性パーソナリティ障害

- 見捨てられることへの極端な不安、思い
- 対人関係が両極端で不安定
- めまぐるしく気分が変わる
- 怒りや感情のブレーキがきかない
- 自殺企画や自傷行為を繰り返す
- 自己を損なう行為に耽溺する
- 心に絶えず空虚感を抱く
- 自分が何であるかわからない

[岡田\(2009\)](#)

カウンセリングが効かない。深入りせず専門機関へ

パーソナリティ障害を支える(一部)

- 同じスタンスで向かい続ける

同じペース・距離を保ち、関心を注ぎ続ける

- 本人の主体性を重視する

自己決定、自己責任が基本

- 目的と枠組みを明確にする

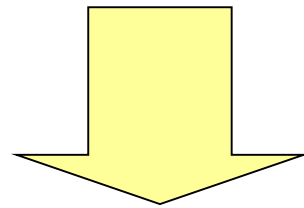
方法にこだわるのではなく、目的を追求すること

- 穏やかで冷静な態度をとる

過剰反応しない(「そういう言い方はしない方がいい」)

ルールをきめ、ルールに従って、チームでかかわってゆく

保護者との話し合いによる支援の決定



個別保育計画の作成支援

(個別の教育支援計画)



支援会議：支援計画の作成と評価

1. 要支援児の認定

気になる子、自己申告など。診断にこだわらない

2. 支援チーム組織と支援会議の開催

コーディネーター、担任、関係職員、保護者

3. 支援計画作成

できることをきめ、合意できた内容を書面にまとめる

4. 実践と評価

できたことを認め、次につなげる。

支援チーム、支援会議、個別の支援計画は三位一体

幼・保、小、中、高、大の連携

社会生活

大学

高等学校

中学校

小学校

個別の保育計画

幼稚園・保育園

幼保・小連携会議
相互の見学

保護者による学校
見学・相談

個別の教育支援計画

早期に支援計画を作成し、次の段階へバトンタッチ

5. 合理的配慮とは

- 障害のある子どもが、他の子どもと平等に「教育を受ける権利」を享有・行使することを確保するために、学校の設置者及び学校が必要かつ適当な変更・調整を行うことであり、障害のある子どもに対し、その状況に応じて、学校教育を受ける場合に個別に必要とされるもの([文部科学省](#))

障害のない子どもと、同じスタートラインに立つための支援

行政機関は法的義務(公立保育園、幼稚園)

合理的配慮の例 (文科省)

- 視覚障害
 - 代わりに読み上げる、点字、点字ブロックなど
- 聴覚障害
 - 手話通訳、ランプ点灯によるアナウンスなど
- 肢体不自由
 - 車いす、バリアフリー、低床バスなど
- 精神障害
 - 休憩できる部屋・ベッドなど。就労支援パス
- 知的障害
 - わかりやすい説明、視覚支援
- 自閉症スペクトラム
 - 構造化、ワークシステムなど「見える化」



合理的配慮が認められるには



- 本人の自己理解

「自分は特別な支援があれば、みんなと同じにできる」

- 本人・代理者の申し出

配慮が必要な「根拠」を示し、学校に要望

- 学校での話しあいによる合意形成

学校は継続して提供できる支援を提案。

- 個別の教育支援計画の作成

話しあいで合意形成、書面で保障、定期的なふりかえりを

6.就学支援制度

自己選択の保障



特別な場での教育

- 通常学級で「できない」から入れられる、のではない

特殊学級や養護学校ではありません。

- 特別な場の利用は権利である

利用→子どもの利益になる。能力を伸ばすことができる

- 情報を収集し、自己決定を

いろんな人に相談し、(見学し)、最後は保護者(本人)が決める

- いじめや偏見への不安に対処する

疑問や悩み、不安は学校に直接たずねる

入学までの流れ

1. 教育相談

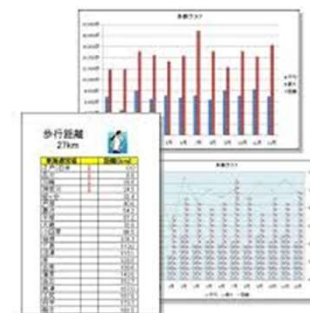
- － 教育委員会、教育センターなど

2. 就学时健診

- － 個別検査などが行われます
- － 就学支援委員会が開かれます

3. 就学相談

- － 就学支援委員会の決定を受けて、保護者が最終決定します



早い段階から関係機関を利用し、早めに情報収集を

(続き)

4. 学校訪問(2月頃)

- 個別に訪問し、保護者の考えを述べます
- 文書、今までの書類等(相談支援ファイル)持参

5. 個別の教育支援計画作成(4月以降)

- 保護者の要望に基づき、学校が作成します
- 内容をよく見てください

6. 入学後の話し合い

- 支援計画に基づき、学校生活が保障されているかどうか、よく見てください

学校との話し合いは必要。できることとできないことを見極める

行政や学校による情報の提示

- 特別支援教育についての概要
 - 通常学級中心の制度、支援学級・学校
- 就学支援制度
 - 親の権利、合理的配慮、サービス提供の限界
- 考えられる選択肢
 - 複数提示、メリットとデメリットを明確に
- 継続的対応の保障
 - 就学相談、入学後の教育措置の変更まで言及

教育委員会の担当者や相談機関の役割です

特別支援学校

- 視覚障害、聴覚障害、知的障害、肢体不自由、病弱
(新潟県)
- 一人一人に応じた教育 79.8%:学級30.8%(H30)
- 専門性の高いスタッフ(教員免許)、充実した施設
- センターの機能
 - 教育相談、地域の特別支援教育支援
- 総合特別支援学校化:複数障害種への対応

144,823人:76,922人(R2)
144,435人:74,849人(R1)、141,939人:73,054人(H30)
小中学部はいまだ増加傾向

特別支援学級

- 比較的軽度の障害のある児童生徒の教育
- 知的障害、肢体不自由、身体虚弱、弱視、難聴、言語障害、自閉症と情緒障害
- 8名で1学級
- 補助教員の導入(市町村)
- LDやADHD等の対応も可能
- 通常学級との交流学習促進：[弾力的運用](#)



300, 540人(R2)。278, 133人(R1)。255,520人(H30)。
自閉症・情緒障害:50%(H30:48%) > 知的障害:46%(H30:47%)

主な特別支援学級

1. 知的障害

- 体験を通して読み書き計算や生活に関する知識を学びます
- 遊び、日常生活の指導、生活単元学習、作業学習など。教科学習もあります

2. 自閉症・情緒障害

- 教科学習が中心です。自立活動という、個別指導の時間があります
- 学校や学級によって実態は様々です

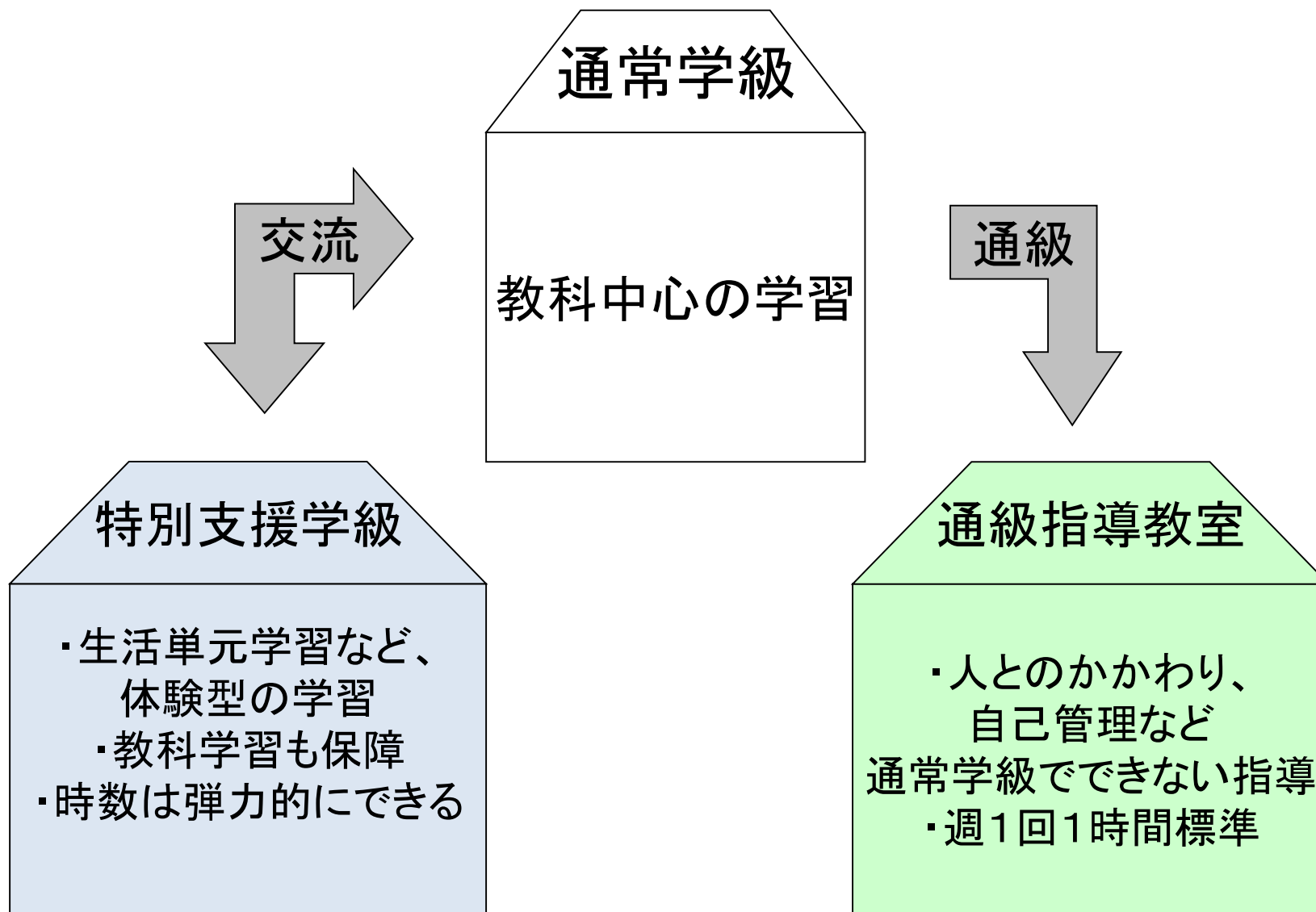
子どもの実態、学校の考え・運営方針をよく見てきめます

発達障害通級指導教室

- 自立活動
 - 人とのかかわり方、自己管理の仕方
- 年間10から280単位時間
 - 週1回1時間程度
- 対象は発達障害に限定せず
 - 診断を必ずしも必要としない



133,398人(R1)。122,394(H30)。
発達障害への理解。専門性のある教員の不足



特別支援学級、通級とも、通常学級とつながっている

メリット

(あくまでも個人的見解です)

- 特別支援学校
 - 個別指導など、きめ細かいサービス
 - 将来の自立に向けた教育
- 特別支援学級
 - 通常学級が利用できる
 - 交流が保障され、地域の子どもともかかわれる
- 通級指導教室(通常学級在籍)
 - いつもクラスメイトと一緒に
 - 子どもに必要な指導が受けられる(個別・小集団)

ディメリット (あくまでも個人的見解です)

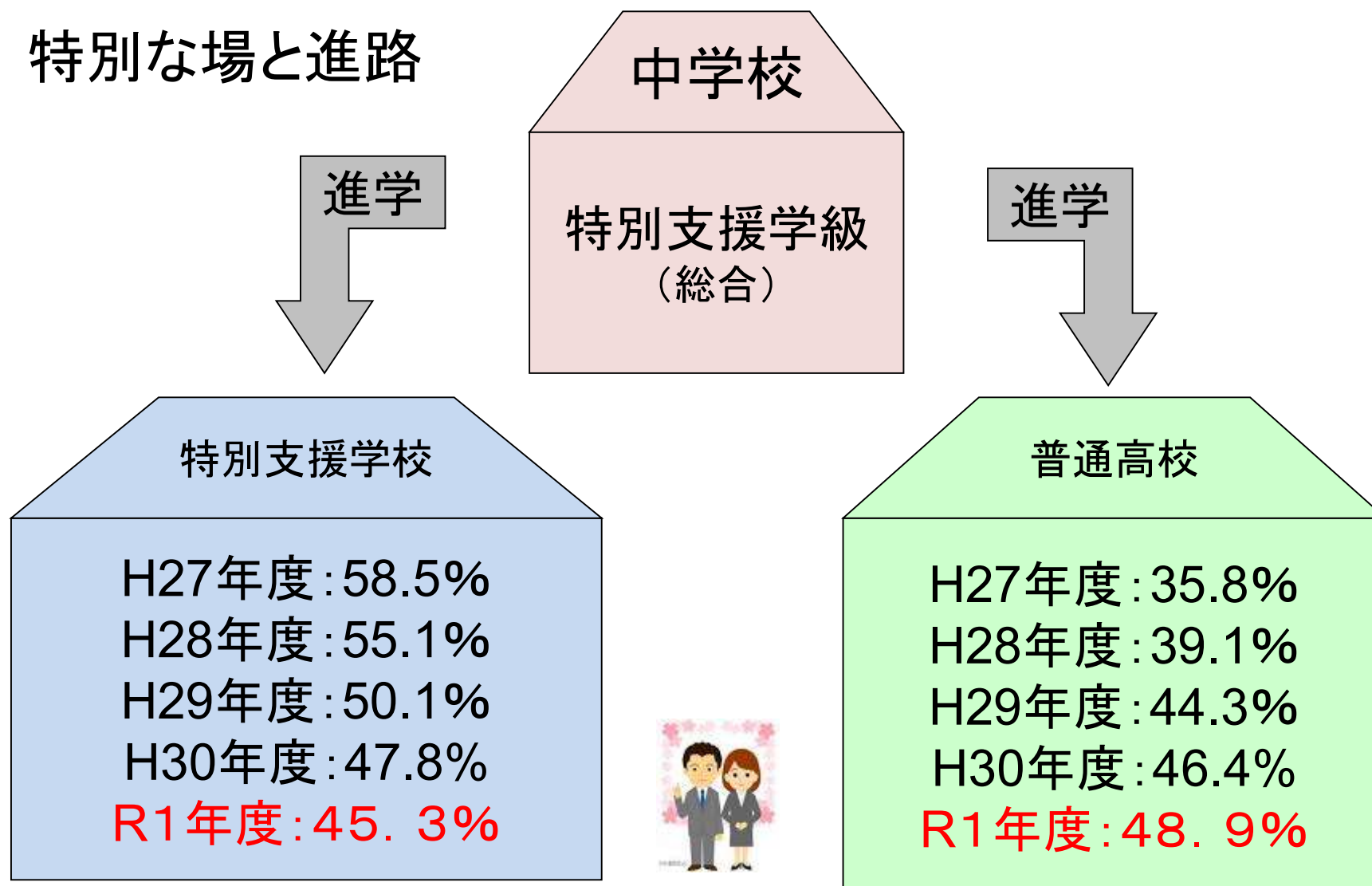
- 特別支援学校
 - 地域・障害のない子どもとの交流がほとんどない
 - 教科学習の時間が少ない
- 特別支援学級
 - 事情により専門的な指導が受けられないことも
 - 実態にあったサービスが保障されないこともある
- 通級指導教室
 - 指導時数が少ない
 - 授業をぬけなければならないこともある

最近の傾向

- 特別支援学校は重度知的障害を対象とする
(新潟市)
 - めやす: 身辺自立、コミュニケーション(-)
- 意にそぐわず支援学級に入級児童は学校支援課が巡回
 - 学校支援など
- よりいっそう通常の学級中心を進める
 - 新潟県

インクルーシブ教育システム推進のため(教育委員会)

特別な場と進路



普通高校への進学者が増えている
(自閉症・情緒障害学級児童生徒数増が関係?)

課題: 入学後の支援の保障、進学の可能性追求



入学の前に

- 幼児に必要な4つの力を身につける

信頼関係、身辺自立、基本的習慣、自己決定

- 遅れや問題行動など、気になることは相談を

地元の相談機関、特別支援学校

- 問題を指摘されたらフォローアップを

身に付いていない力を少しでも伸ばす

- 入学前に両親で学校に出向く

書面で必要な支援を校長に要望する

小学校への円満な移行には子に合った支援
次のステージ(中高)への意識を。でも焦らせないこと



チェックリスト

1. 家庭のルールが一つでもありますか
2. お子さんにしょっちゅう声をかけたり、褒めたりしてありますか
3. お子さんの「ウリ」を認めていますか
4. お子さんと話し合っ物事をきめていますか
5. お子さんとゲーム機以外の遊びを楽しんでいますか
6. 問題を起こしたとき、言い分を聴いていますか
7. ネット利用のルールがありますか
8. 子ども主体のコミュニケーションを意識していますか
9. 家族で定期的に楽しむイベントがありますか
10. 愚痴を聴いてくれる人はいますか

幼児を育てている保護者向け

長澤研究室



特別支援教育・発達障害の情報
講演会の資料

